

# 下水道事業

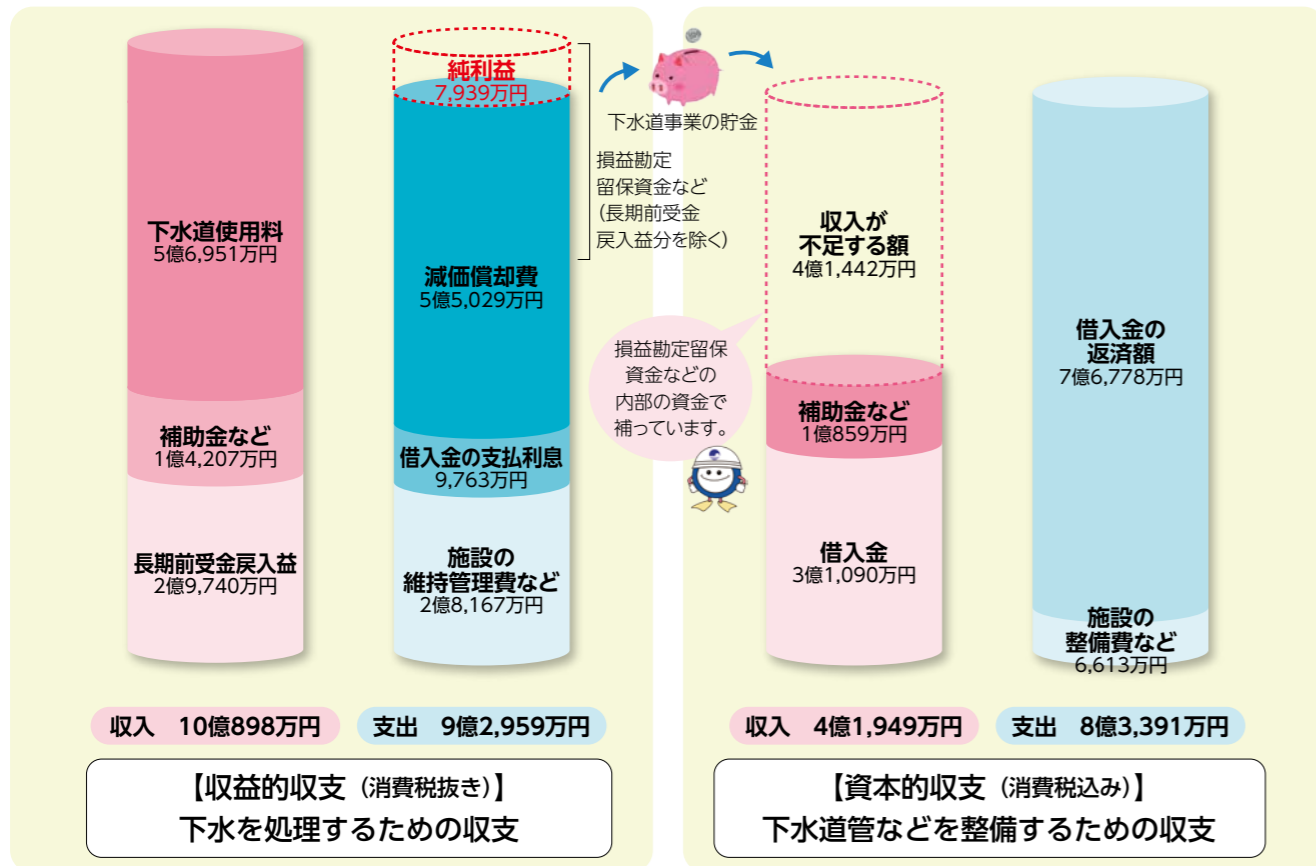


日本下水道協会キャラクター「スイスイ」

下水道事業は約7,939万円の純利益

下水道事業は、公共下水道と農業集落排水の2つの事業を実施しており、水道事業同様、公営企業として「独立採算制」を基本に事業を運営しています。

令和3年度の下水道事業会計決算についてお知らせします。



## 【下水道事業の業務概要】

項目	説明	令和3年度	令和2年度	前年度比
処理区域内人口	下水道が整備されている区域内の人口	23,625人	23,896人	△ 271人
水洗化人口	下水道管に接続している人口	21,197人	21,406人	△ 209人
年間総処理水量	家庭などから流された年間汚水量	2,774,950m <sup>3</sup>	2,835,960m <sup>3</sup>	△ 61,010m <sup>3</sup>
年間有収水量	総処理水量のうち使用料の対象となった汚水量	2,594,983m <sup>3</sup>	2,625,217m <sup>3</sup>	△ 30,234m <sup>3</sup>



▲更新したマンホールのふた

**令和3年度に実施した主な事業**  
令和3年度は、農業集落排水事業の薬師堂クリーンセンターを廃止し、公共下水道に接続したほか、浸水対策事業として繰越工事の八幡町の雨水幹線工事、長寿命化事業として市内30カ所のマンホールふたの更新工事などを実施しました。  
今後も安全で快適な生活環境の構築を目指し「白石市下水道ビジョン」に基づき、効率的な事業運営に努めていきます。

**下水道事業会計決算の概要**  
収益的収支については、収支差し引きで7,939万円の純利益を計上しました。この利益は、累積している欠損金の解消に充てられます。また、資本的収支において、借入金の返済額が年間7億円を超えており、経営を圧迫している要因となっています。

# 水道事業

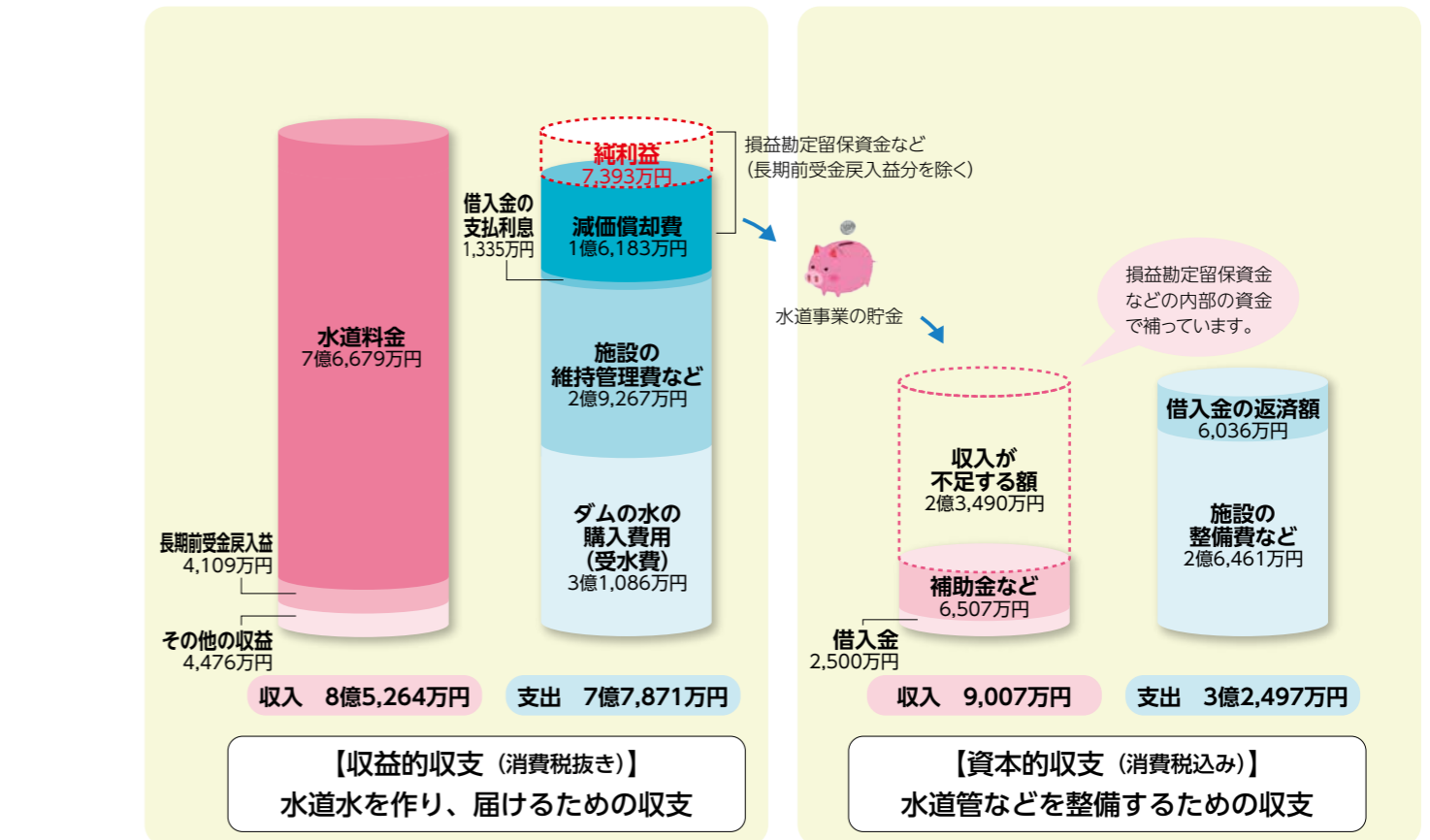


日本水道協会キャラクター「Dr. すいどー」

水道事業は約7,393万円の純利益

水道事業は、公営企業として「地方公営企業法」に基づき、水道料金を主な財源とし「独立採算制」を基本に事業を運営しています。公営企業の収支は、一般会計とは違い、「収益的収支」と「資本的収支」という区分で経理を行っています。

令和3年度の水道事業会計決算についてお知らせします。



## 【水道事業の業務概要】

項目	説明	令和3年度	令和2年度	前年度比
給水人口	水道により給水を受けている人口	31,094人	31,609人	△ 515人
給水戸数	水道により給水を受けている戸数	13,622戸	13,664戸	△ 42戸
年間総配水量	配水池などから配水された年間水量	3,730,657m <sup>3</sup>	3,818,914m <sup>3</sup>	△ 88,257m <sup>3</sup>
年間有収水量	総配水量のうち料金の対象となった水量	2,904,086m <sup>3</sup>	2,973,313m <sup>3</sup>	△ 69,227m <sup>3</sup>

**水道事業会計決算の概要**  
収益的収支については、収支差し引きで7,393万円の純利益を計上しました。この利益は、今後老朽化した水道施設の更新に使用する予定です。また、資本的収支の支出に対し収入が不足する額については、内部の資金により補ってんしています。  
**令和3年度に実施した主な事業**  
令和3年度は、越河、白川、深谷の3地区に水道の圧力を調整する減圧弁を設置したほか、白石駅周辺の老朽管の更新工事に着手しました。  
また、前年度に新設した大町ポンプ場に加圧ポンプユニットなどの設備を設置し運用を開始しています。場内には、災害用の機材倉庫も設置し、今後の災害に備え給水タンクや補修用材料などを備蓄しています。  
今後も安心安全な水道を将来につないでいくため、「白石市水道ビジョン」に基づき、効率的な事業運営に努めていきます。



▲大町ポンプ場と備蓄倉庫